

抗アミロイド抗体薬治療を踏まえた認知症の人の介護家族等への支援の実態調査研究
研究分担者 東京都健康長寿医療センター 副院長 岩田淳

研究要旨

アルツハイマー病に対する疾患修飾療法（DMT）の導入は、認知症ケア体制に新たな課題をもたらしている。本研究では、患者、介護者、医療・支援提供者への質的インタビューを通じて、情報提供の継続性の不足、心理社会的支援の乏しさ、ならびに紹介・連携体制の不明確さを明らかにした。これらの知見は、DMTを既存の認知症ケアと統合し、患者中心の継続的支援体制を構築する必要性を示している。

A. 研究目的

アルツハイマー病に対する疾患修飾療法（DMT）の導入は、認知症ケアにおける診断経路、紹介プロセス、およびサービス連携に大きな変化をもたらした。日本は、全国的に調整された認知症ケア枠組みの中でDMTを早期に導入した国として、医療サービス体制がこれらの変化にどのように対応しているかを検証する好機を提供している。本研究では、DMTの経路全体で生じている医療サービス関連の支援ニーズについて、患者および家族介護者の体験に焦点を当て、サービス提供者からの補足的な視点も交えて検討した。

B. 研究方法

半構造化インタビューを用いた質的研究を実施した。対象は48名の参加者で、DMT適格性評価を受けた患者9名、家族介護者7名、医師11名、看護師4名、臨床心理士5名、ソーシャルワーカー5名、および地域密着型認知症支援提供者7名が含まれた。データは、医療サービス研究に適した応用質的アプローチであるFramework Methodを用いて分析した。患者と介護者の証言を主要な掲載予定記事分析の焦点とし、一方、提供者の視点は、ケアの提供に影響を与えるシステムレベルの要因を文脈化するのに用いられた。本研究は、東京都健康長寿医療センター倫理委員会の承認を得て実施した(R24-11)。

C. 研究結果

3つの相互に関連するテーマが特定された。第一に、情報支援のニーズは、信頼できる情報へのアクセス格差、複雑な医学的説明に対する理解を持続することの困難さ、そして、特に適格性の喪失、治療の中断、または完了といった移行期において、時間の経過とともに情報を再確認する体系的な機会の欠如を反映していた。第二に、心理社会的支援のニーズは、臨床的および社会的文脈におけるスティグマに関連する経験、治療に関する家族間の緊張、治療効果に対する期待の変動、そしてDMTが選択肢でなくなった際の適応に対する限られた支援など、サービスプロセスによって密接に形作られていた。第三に、組織的および協働的な支援ニーズからは、プライマリケアとDMT指定機関との間の役割の分断、不明確な紹介および引き継ぎの経路、不十分な心理社会的ケア能力、そしてDMT提供システムと既存の認知症ケアサービスとの間の統合の弱さが浮き彫りになった。

D. 考察

DMTの導入は、認知症ケアシステムに以前から存在していた格差を拡大させ、情報、心理社会的、およびシステムの領域にわたる、これまで十分に認識されていなかった構造的な脆弱性を浮き彫りにした。

E. 結論

これらの知見は、DMTが、治療適格性にかかわらず、情報提供の継続性、心理社会的支援へのアクセス、およびフォローアップ責任の明確な割り当てを確保する、調整されたケアパスウェイに組み込まれるべきであることを示唆している。公平で継続的かつ患者中心の認知症ケアを支援するためには、薬理的イノベーションと医療サービスの設計を整合させることが不可欠である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Kae Ito, Shuji Tsuda, Taisei Wake, Akira Hatakeyama, Fumiko Ogisawa, Mayuko Ono, Riko Nakayama, Tomoko Wakui, Nobuko Nagano, Atsushi Iwata: Reframing dementia care in the era of disease-modifying therapies: informational, psychosocial, and systemic insights from Japan. *BMC Health Services Research*, published online, 2026, published online: 2026/3/30

2. 学会発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし